

# TOEIC (LR) 教材を用いた4技能育成の考察

## 4技能を使ったアクティブラーニング

### Developing Four Skills by Using TOEIC (LR) Materials

#### Active Learning with TOEIC Materials to Build All Four Skills

山科 美智子

YAMASHINA Michiko

The Ministry of Education issued the “English Education Reform Plan Corresponding to Globalization” in 2013. The English educational reforms were aimed at developing Japanese students’ communication skills in English by improving comprehensively the four skills of listening, reading, speaking, and writing. However, the most popular test adopted by more than 3,400 companies for evaluating candidates’ English skill is the TOEIC listening and reading test, which focuses only on listening and reading skills, not speaking and writing skills. Learners need four skills to communicate in the global market, but need to focus only on listening and reading for the TOEIC test. To effectively prepare students for both needs, I propose improving learners’ four skills by developing some activities arranged around the TOEIC (LR) materials. In this research, I analyze how the activities worked in a class and show how learners improved all four skills and also improved their scores on the TOEIC (LR) test.

#### 1. はじめに

文部科学省は、平成25年12月に「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」を発表した。新たな英語教育改革においては、東京オリンピック・パラリンピックを迎える2020(平成32)年を見据え、「聞く」「読む」「話す」「書く」の4技能をバランスよく伸ばすことにより、英語を

使ったコミュニケーション能力を向上させ、グローバル人材を育成することを主眼としている。

文部科学省が英語教育改革に乗り出したのは、東京オリンピック・パラリンピックだけが主な理由ではない。米国のテスト作成機関である ETS (Educational Testing Service) が2014年1月から12月に行った TOEFL テストのスコアランキング (TOEFL iBT Total and Section Score Means<sup>1</sup> — All Examinees, Classified by Geographic Region and Native Country) によると、日本人の TOEFL 平均スコアは120点満点中70点で、アジア圏では36か国中33位、世界全体では、163か国中137位と最下層に位置している。各技能別に見ると、それぞれ30点満点中、Reading 18、Listening 17、Speaking 17、Writing 18で、どの技能もかろうじて50%を超える程度である。そして、他のアジアの国と比較すると、特にスピーキング (17点) とライティング (18点) の点数が低く、スピーキングは、アジア圏で最下位となっている。この結果は、これからのグローバル社会において、日本人がコミュニケーションに支障をきたしたり、あるいは英語での交渉力不足から、ビジネスや国際交流において不利な立場におかれるであろう不安要素を示唆している。

この結果は、今までの英語教育が、「英語を使って発信する」能力を培ってこなかったことに大きな要因があると推測される。英語は、「聞く」「読む」「話す」「書く」の4技能を総合的に伸ばすことが重要でかつ効率が高いと言われている。しかし日本の今までの英語教育は「受身の技能」であるリーディング、リスニングの技能を伸ばすことを主体とし、スピーキング、ライティングといった、英語を使って自分の意見を伝える「発信の技能」をないがしろにしてきた。現に、大学入試においても、リスニング、リーディングに関して技能を計る試験のみで、スピーキングに関するテストは行われておらず、ライティングにおいてもエッセイライティングなどを課す大学は非常に少ない。

この現状を踏まえ、文部科学省では大学入試改革にも乗り出している。2015年1月23日に行われた「英語4技能資格・検定試験懇談会」において、4技能にわたる英語力を適正に測定するテストの、学校の授業や大学入試等における活用を促進することを目的として、平成26年12月、文部科学省は「英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の活用促進に関する連絡協議会」を発足することを発表した。この4技能測定には、TOEFL や IELTS など、外部試験を活用することも検討されている。

こうした4技能重視の流れの中であって、現在、就職、採用試験で、英語力を証明するために最も多く用いられている試験は TOEIC (Test of English for International Communication) である。TOEIC は、Listening と Reading の能力を測る LR と Speaking, Writing の能力を測る SW に分かれている。LR の公開テストは年10回、SW の公開テストは年12回行われているが、

現在日本の企業が主に採用しているテストスコアは、TOEIC (LR) である。一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会 (IIBC) によると、2014年の受験者数は、TOEIC (LR) が240万人、TOEIC (SW) は2万4千人で、LRの受験者数はSWの100倍となっている。文科省の4技能重視への転換もあり、SWの受験者数も2010年度の8500人から2万4千人に増加しているが、それでも現実的には、SWではなく、LRが英語力を測るための主要な試験となっていることに変わりはない。個人による受験のほかにも、約3400の企業、団体、学校がTOEIC (LR) の学内、社内試験を採用しており、多くの大学、短大、専門学校では、TOEIC (LR) のためのカリキュラムが組み立てられ、対策講座が設けられているのが現状である。

TOEIC (LR) の試験問題は、当然ながら、リスニングとリーディングだけに絞られている。本来であれば、LRとSW両方のテスト対策をしてこそ4技能すべてをバランスよく伸ばし、総合的な英語力の向上に寄与するのだが、現実的には、受験者のLR偏重の傾向は強い。これにはいくつかの要因が考えられる。第1に、今までLRを主として英語教育を受けてきた世代が、英語の資格試験を受ける場合は、やはりLRで実力を測ろうとする傾向があること。第2に、今までスピーキングやライティングのテストを受けたことがなく、かつ日常的に話したり書いたりする機会が少ないと、SW試験を受けることはハードルが高いということ。そして、第3に、SW試験の受験料がLRに比べて高額であることがあげられる。現在、一般的な個人受験の場合、LRの受験料は5,725円だが、SWは10,260円であるため受験者の負担が大きい。LRはマークシート解答であるためコンピューター処理ができるのだが、SWは、個々のデータをアメリカのETSに送り、そこでトレーニングを受けた複数の評価者が受験者の録音された音声を聞き、あるいは、受験者のライティングを読んで一つ一つ評価し、複数の評価者の平均点が一人の受験者のテストスコアとなるため、LRに比べ手間がかかり高額になってしまうことを免れない。以上のような理由で、SWの受験者はLRの受験者の100分の1に留まっていると思われる。

それでは、TOEIC (LR) の素材を使って、スピーキング、ライティング技能の向上も図ることはできないだろうか？TOEIC (LR) は、試験問題にありがちな非常にドライな教材であると思われるが、実は題材には、ビジネスマンがアメリカで遭遇するであろう一般的なシチュエーション、例えば駅で電車に乗ったり、歯医者で予約を取るなどといった、日常的な場面や、ビジネスでのコミュニケーションの場面が採用されており、非常に実用性の高い英語が用いられている。

以上のことをふまえ、本研究では、LRの写真描写問題、応答問題、そして会話問題をアレンジして、英語の4技能をすべて使ったコミュニケーション重視のアクティビティーをすることで、

TOEIC (LR) スコアの上昇を図るだけでなく、4技能のバランスのいい向上を目指した。また、このアクティビティーは、タスクベースのアクティブラーニングになるようにデザインした。講義形式の授業ではなく、学生自ら「TOEIC 問題を作成する」というタスクをこなす上で、グループワークを通じて、お互いに学びあうようにプランニングされている。以下は実際に行ったアクティビティーとそれを通して観察した生徒の英語力の変化である。

## 2. TOEIC テストの概要

まず、TOEIC (LR) テストに関して概略を述べたい。TOEIC は、米国ニュージャージー州プリンストンに拠点を置く、世界最大の非営利テスト開発機関である ETS によって作成されている。ETS は、TOEIC のほかに、TOEFL (Test of English as a Foreign Language の略。1964 年に英語を母国語としない人々の英語コミュニケーション能力を測るテストとして開発された)、SAT (全米大学入学共通試験)、GRE (大学院入学共通試験) 等約200のテストプログラムを開発しており、教育、心理、統計、心理測定、コンピュータサイエンス、リサーチ、社会学、人文科学の各分野のエキスパートによって構成されている。

TOEIC (LR) は、リスニングセクション45分、リーディングセクション75分の計120分の試験である。リスニングは Part1 写真描写問題、Part2 応答問題、Part3 会話問題、Part4 説明文問題の4パート、リーディングは、Part5 短文穴埋め問題、Part6 長文穴埋め問題、Part7 読解問題の3パートで構成され、計200問が出題される。受験者の英語力は、合格、不合格ではなく、リスニングセクション5点～495点、リーディングセクション5点～495点、トータル10点～990点で評価される。リスニングにおける発音は、米国、英国、カナダ、オーストラリア（ニュージーランドを含む）の4種類の発音が使用されている。ETS によると、試験は、「言語運用能力の基礎をなす文法、語彙、音声識別能力などを幅広く測定し、基礎能力があってこそ持ちうる高いレベルでの能力も評価できるよう設計されている」という。

公益財団法人 日本英語検定協会が作成している「実用英語技能検定」と大きく違うところは、級が分かれていないため、一つの試験問題の中に、初級者を対象にした難易度の低い問題から、上級者を対象とした非常に難解な問題までが混じっており、難易度の低い問題を正解しても、高い問題を正解しても、得点は変わらないことである。受験者は、特にリーディングセクションにおいては、難しい問題でつまづいて時間を無為に費やすことのないよう、タイムマネジメント

をしながら、自分の解ける問題をできるだけ多く解くというテストスキルも必要とされる。

### 3. 英語4技能を総合的に伸ばすことの意義

文部科学省は、英語でのコミュニケーション力を伸ばすためには、聞く、読む、話す、書く、の4技能をバランスよく伸ばすことが大切であると主張している。この4技能は、実は、コミュニケーションに欠かせないだけでなく、密接につながりあって、お互いを支えあっている。

Yvonne S. Freeman, David E. Freeman (1998) は、こう述べている。

The research suggests, then, that functional reading and writing as well as speaking and listening should be integral parts of all language classroom activities because all these processes interact with one another.<sup>1</sup>

Harste, Woodward, and Burke (1984) は4技能に関して、“data pool concept”を主張している。

What language users learn from a language encounter feeds a common pool of linguistic data which can be drawn upon in subsequent language encounters.... Growth in a given expression of language must be seen as a multilingual event; in reading, for example, hearing a set of directions read, encountering written language with others, listening to a book, talking about a newspaper article or attempting to write one's own story, all support growth and development in literacy.<sup>2</sup>

言語ユーザーは、読んだり、書いたり、話したり、聞いたりするたびに、すべてのスキルに共通の“データプール”に言語情報を蓄積し、そして、言語を使うたびに、その“データプール”から情報を引き出すのである。4技能をバラバラに機能させるのではなく、すべての表現スキルをトータルで学ぶことで、リテラシーを向上させることができると論じている。

Yvonne S. Freeman and David E. Freeman は、前掲書の中で、以下のように結論づけている。

Teachers should ensure that all students have chances to talk and listen, as well as read and write every day by embedding all learning in a rich verbal and nonverbal context.<sup>1</sup>

つまり、4技能をバラバラではなく、統合した形で伸ばすことこそが、効率の良い英語学習法なのである。前述の ETS による TOEFL スコアランキングで、日本人が学校教育でリスニングとリーディングに力をいれてきたにも関わらず、両スキルともアジアの国々の中でも下位にランクしているのは、2技能での偏った学習法では、結局その2技能でさえも十分に伸ばすことができないということの証明であろう。以上のことを踏まえ、以下に、TOEIC (LR) のリスニング問題を使った4技能アクティビティーとそれによる生徒の英語力の変化を論じたい。

#### 4. アクティビティー実施概要

##### 4.1. 対象者

女子短大生 TOEIC (LR) 600点を目指すクラスに在籍する16人。TOEIC (LR) のスコアは、300点台5人、400点台6人、500点台5人である。授業は週2コマ（1コマ80分）で組まれている。

##### 4.2. 使用教材

『TOEIC テスト新公式問題集』Vol.4～6 発行：一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会

ETS は、日本において、TOEIC の過去問題を一切公表していないが、TOEIC の公開テストに一番近い問題集として、『TOEIC テスト新公式問題集』Vol.1～6を発行している（以下、公式問題集と記す）。リスニングの音声担当者も公開テストと同じであり、一番信頼性が高い。よって、ETS の公式問題集の中から、比較的新しい版である Vol.4～6の三冊を教材として用いた。

##### 4.3. 実施時期

2015年 9月～12月

## 5. リスニングセクション Part1 (写真描写問題) に関するアクティビティー

### 5.1. Part1 (写真描写問題) の概要

まず、アクティビティーに入る前に、学生は、Part1の写真描写問題の分析を行い、どのように問題が作られているのか、解くためにはどんな知識が必要かを学んでから、実際に問題を解いてみる。そして、それを踏まえたうえで、4技能アクティビティーに移行していく。以下は、写真描写問題に関する概要である。

Part1の写真描写問題では、1枚の写真について、4つの短い説明文が一度だけ放送される。受験者が見られるのは写真のみであり、音声で聞いた4つの説明文のうち、写真を最も的確に描写しているものを選ぶ。全部で10問が出題される。

TOEIC (LR) の一般的なパートの構成としては、最初は初級者でも解ける易しい問題から始まり、後半は難易度の高い上級者向けの問題にシフトしていく傾向がある。パート1では、受験者は、写真に写っているものや動作を表すボキャブラリーを知っている必要があるが、後半の難易度の高い問題では、ボキャブラリーの言い換えがよく問われる。例えば、写真に **refrigerator** (冷蔵庫) が写っている場合、説明文で **refrigerator** という単語が出てくれば、正解を選ぶのは易しいのだが、これを **appliance**(家電)という単語に置き換えられると、難易度が増すのである。

ボキャブラリーとともに、このパートでは、選択肢に使われている態や時制にも注目しなければいけない。人がメインで写っている写真に関しては、現在進行形の能動態が圧倒的に多く使われるが、ものだけが写っている写真や、人ともものが写っている写真では、現在進行形の受動態、現在完了形の受動態が出題される。以下は、『新公式問題集 VOL.6』の Test1、Test2のパート1の選択肢に使われている時制と態の内訳である。公開テストも、ほぼこの割合で、選択肢が構成されていると推察される。

表1. パート1の選択肢における時制と態の内訳

時制、態	Test1	Test2	合計
現在進行形、能動態 (人+be 動詞+～ing)	28	26	54
現在進行形、受動態 (もの+be 動詞+being+過去分詞)	4	3	7
現在完了、受動態 (もの+have (has) been+過去分詞)	5	5	10
現在形、能動態 (人+動詞+前置詞句)	2	4	6
現在形、受動態 (もの+be 動詞+過去分詞)	1	1	3



学生は高校までの英語教育でこれらの態や時制に関しては学習しているが、特に進行形の受動態や現在完了形の受動態は英語独特の言い回しで、日本語で同じような表現をする機会は少ないため、文法事項の理解にとどまっている場合が多い。そのため、実際に音声でその表現が流れたときに意味を把握できない場合が多い。そこで、まず学習効果を高めるため、態や時制を復習し、それを意識して音声聞きとるスキルを高める。

例：新公式問題集より

例1



- (A) Cheese is being wrapped for a customer.
- (B) Cheese has been packed into cartons.
- (C) Labels are being attached to pieces of cheese.
- (D) Cheese has been cut into different sizes.

この写真の描写の選択肢には、現在進行形の受動態、現在完了形の受動態、が用いられている。

(A) Cheese is being wrapped for a customer. は、現在進行形の受動態である。写真を見ると、チーズがラップされているので、この選択肢を選んでしまう学生が多い。この文章は、(チーズが顧客用に包まれているところである) という現在進行形の意味なので、この写真を描写する文章としては適切ではない。現在進行形の受動態が使われる場合、「もの」が主語になる場合が多いが、ものは自分では動かないので、それを動かしている「人」が写っていないといけない。戦略としては、人が写っていない写真に、現在進行形の受動態が使われている場合は、その選択肢は不正解である。

(C) Labels are being attached to pieces of cheese. も同様に、現在進行形の受動態である。チーズにはラベルが貼られているが、この文章は、(チーズのひとつひとつにラベルが貼られているところである) という意味なので、今まさにラベルを貼っている人が写っていないといけないのである。この選択肢を選んだ学生も多かった。

それに比べて、(B) Cheese has been packed into cartons. (チーズがボール箱に詰めてある) と (D) Cheese has been cut into different sizes. (チーズがバラバラの大きさに切つてある) は現在完了形の受動態が使われていて、すでにもうそういう状態にされている、という意味を表



す。そこで、(D) が正解となるのである。受験者は、聞き取れたボキャブラリーの理解だけで問題を解こうとすると、(A), (C), (D) のどれも適切に思えてしまい、(D) の正解を選べない。時制と態を正しく聞き取るスキルが必要とされるのである。

## 例2



- (A) Some merchandise has been hung outside a shop.
- (B) A variety of handbags has been arranged for display.
- (C) One of the women is buttoning up her coat.
- (D) One of the women is carrying a package into a building.

例2では、(A) Some merchandise has been hung outside a shop. (商品が店の外につるされている。) (B) は A variety of handbags has been arranged for display. (様々なハンドバックが展示用に並べられている) は、現在完了の受動態で、しばらく前からそのような状態であることを示す。写真を正しく描写しているのは (B) である。しかし、(C) One of the women is buttoning up her coat. を選んでしまう学生もいる。写真の中の女性は、コートを着ていて、コートのボタンはかけられている状態なので、(C) も正解のように思えるが、この文章は現在進行形であるから、(女性の一人はコートのボタンをかけているところである) という意味になり、今まさにボタンを留めているところでないといこの選択肢は選べない。

以上述べたように、時制と態を理解することは、パート1の問題を解く上で重要である。加えて、もうひとつ、聞き取りの問題がある。実際には、選択肢のトランスクリプトは見られず、音声だけで正解を選ばなければいけないが、現在進行形の受動態と現在完了形の受動態の判別はなかなか難しい。5の例文を例にとると、(A) Cheese is being wrapped for a customer. の is と、(B) Cheese has been cut into different sizes. の has ははっきり発音されず、being と been の区別も難しいため、注意が必要である。

以上を踏まえ、次のアクティビティーに移る。

## 5.2. リスニングセクション Part1に関するアクティビティー

- ①16人の生徒ひとりひとりが、パート1から好きな写真をひとつ選び、その写真について4つの選択肢を作成する。その際、現在進行形の能動態、現在進行形の受動態、現在完了形の受動態のうち、2つ以上の異なる態、時制を使うことを条件とする。(ライティング)
- ②4人のグループで、お互いの作成した問題を読んで英語で評価しあい、適切でない文章があれば、訂正する。(リーディング、スピーキング)
- ③ひとりずつ、自分が作成した問題を、クラスの前で発話し、クラス全員に解いてもらう。(スピーキング)
- ④クラス全体は、作成者の発話を聞きながら、正しく写真を描写しているものをひとつ選ぶ。(リスニング)
- ⑤問題作成者は、解答、解説をする。

## 5.3. 生徒の作成問題

- ①、②の段階で、学生がどのような問題を作成し、またどのようなミスがあったかをまとめた。例として、ふたりの生徒の作成問題を挙げる。

### Student A の作成問題 (公式問題集 Vol. 5 Test2 Part1 写真10)



- (A) A man is putting on a helmet.
- (B) A man is watching a flying bird.
- (C) A man is riding a scooter.
- (D) Many birdcages are being opened.

Student A の作成問題は、現在進行形と現在進行形の受動態が使われている。正解は (C) であるが、(A) に、ひっかけの選択肢を入れている。男性は、ヘルメットをかぶっているので、(A) を選択したくなるが、**putting on** (今まさにかぶろうとしているところ) と **wearing** (かぶっている状態である) という表現を区別しなくてはならない。選択肢 (D) には、現在進行形の受動態が使われている。

## Student B の作成問題 (公式問題集 Vol. 5 Test2 Part1 写真7)



- (A) Many pottery have put on the shelf.  
 → Many pieces of pottery have been put on the shelves.
- (B) A base is used by the man.
- (C) A flower pot is being baked.
- (D) A pottery have put it in carton.  
 → A piece of pottery has been put in a carton.

Student B は、現在完了の受動態を使って (A) と (D) の選択肢を作成しようとしたが、been が抜けてしまい、不完全な文章になっている。そして、(D) は受動態にも関わらず、目的語の it を挿入してしまっている。また、pottery (陶器類) が不可算名詞であることが認識されておらず、a, many をつけてしまっている。しかし、現在完了の受動態、現在形の受動態、現在進行形の受動態の3種類を使って選択肢を作ろうとした点は評価できる。

以下、学生の作成したセンテンスにおける誤りの種類と数を表にした。

表2. 誤りの種類と数

No.	誤りの種類	数
1	現在進行形の受動態の文型	4
2	現在完了形の受動態の文型	2
3	能動態の文型	2
4	名詞の可算、不可算の区別	3
5	主述の一致	1
6	イディオム	1
7	前置詞	1
8	スペリングミス	1

文法的なミスとしては、やはり、現在進行形の受動態と現在完了形の受動態に関するまちがいが6個あり、能動態の2個と比べると多い。この結果は、パート1のリスニング問題を解いた時と同じである。文法が理解できていないと、正しいセンテンスを書くことができず、かつリスニングでも正解を導き出せない。ライティングによって、書いたものを添削し、それを目で確認することにより、理解することが、リスニングの向上につながると考える。

#### 5.4. 結果と考察

- ①ライティングのアクティビティーに関しては、自分で選択肢を作成し、書く上で、あらためて文法を見直して、現在進行形の受動態や現在完了形の受動態がしっかり理解できたというコメントが多かった。
- ②リーディングのアクティビティーでは、グループでお互いのセンテンスを読みあって、文法や語法を確認して添削しあった。学生同士では気づかない、また訂正できないミスもあり、私がアドバイスをしたケースもいくつかあった。②のアクティビティーでは、本来ならば、学生同士、英語で議論することで、スピーキングのスキルの向上も期待できるのだが、実際は英語でことばが出てこず、結局どのグループも主に日本語を使った議論になってしまった点は、これから改善の余地がある。
- ③スピーキングのアクティビティーでは、自分の作ったセンテンスをクラスの前で発話することが求められる。生徒はいつも音声を聞いて、問題を解く側だが、自分が出題者になれるのが面白いらしく、CDの音声をまねして、ネイティブのように発音しよう、とする生徒の意気込みが見えた。また、小さい声でぼそぼそ発音すると、皆が問題を解けないため、はっきりわかりやすく発話しようという意識が働き、より発音やイントネーションに意識が集中した。
- ④リスニングのアクティビティーでは、問題を解く立場の学生は、友人が作成した問題に興味津々で、勉強した文法事項やボキャブラリーの言い換えなど、どこにワナが仕掛けられていて、どこが難しく作られているか、意識しながら問題を解いていた。自分が作成者と回答者の両方の立場を経験することは新鮮だった、という意見が多く聞かれた。
- ⑤問題作成者は、正解をアナウンスして解説することで、再度、文章の態や時制、ボキャブラリーを確認することができて総括的な復習になった。解説を聞く立場の学生も、文法事項を再確認できて、相互的な学習体験が実現できていた。

#### 5.5. 学生のアンケート

以下は、パート1のアクティビティーに対する学生の感想である。

- ・問題を作っている人の考えていることがわかってきたように思う。
- ・みんな問題をとてもうまく作っていて、解くのが難しかったです。
- ・実際に問題を作るのは思ったよりも困難だったし、自分の発音に自信がなく、問題を出すのが大変だった。
- ・自分で問題を作ってみることで、文法の使い方を再確認することができた。同時にボキャブラ

リーが足りなくて、文を作るのが大変だったので、語彙力をもっと伸ばしたいと思った。

- ・みんなが作った問題を解いた。文章が長くて意味が理解できなかった問題もあった。
- ・今日は、みんなの前で自分の問題を発表したの、ちょっと緊張しました。発音がわかりにくい人もいたので、自分は英語らしくはっきり発音しようと思いました。文法の解説はむずかしいな～。
- ・問題作りは人それぞれ違っていて楽しかったし、問題を作る側から考えれば、対策ができるんだ！と思いました。
- ・質問を考えると、文体を考えるのが難しく、いつも is+～ing になってしまって、苦労しました。
- ・問題を自分で作るのは、予想以上に難しかったです。
- ・人を主語にして現在進行形で作るのはやさしかったけれど、ものを主語にする文章は作るのが難しかった。
- ・みんなが作った問題を解いて、すごいよくできていて、現在形とかばかりでなく、受動態をうまく作っていたので、勉強になりました。

アンケートを読むと、学生同士でお互い学びあいながら、文法を再確認し、また、人に伝えるために、発音を意識してこのアクティビティーに取り組んだ様子がわかる。

## 6. リスニングセクション Part2（応答問題）に関するアクティビティー

### 6.1. Part2（応答問題）の概要

Part2は、会話の中で、どういったやり取りが行われるのか、ひとつの質問または文と、それに対する3つの応答の中で、どの応答が適しているかを判断する問題である。質問も応答の文も印刷されていないため、受験者は放送される音声だけで質問を理解し、それに対する適当な応答を選ばなければならない。

Part2は全部で30問あるが、最初は難易度の低い問題から始まり、後半は現実の様々なシーンで交わされるであろうよりプラクティカルな会話が増え難解になってくる。ここでは大きく3つの難易度に分けてみた。

#### ① 質問の全体が聞き取れなくても、最初の疑問詞さえ聞き取れていれば答えがわかる問題

例1. Where did Constance work last year?

(A) For a few years.

(B) Not at all.

(C) At a bookstore.

例2. Who's going to set up the room for our meeting?

(A) Yes, I think there's a room.

(B) Paul offered to do it.

(C) After three, I believe.

例3. How should we transport these crates?

(A) At the warehouse

(B) By truck

(C) It's on Thursday

例1では、受験者がもし、Constance が人の名前だとわからなかったとしても、最初の疑問詞の Where さえ聞き取れていれば、場所をこたえているもの、つまり、At a bookstore の (C) を選ぶことができる。

例2でも、最初の疑問詞 Who が聞き取れていれば、人の名前がくるもの、すなわち (B) を選択することができる。疑問詞で聞かれた場合、Yes No では答えないので、(A) は即座にはずすことができる。

例3では、疑問詞 How が聞き取れれば、手段を聞いていることがわかるので、(B) を選ぶことができる。質問文の中の、crates は、「果物、びん、家具などを運ぶ木わく」のことで、日常的にあまり聞かない単語であるため、知らない受験者も多いと思われるが、問題を解くためには、最初の How だけ聞き取れていれば、他の単語がわからなくても正解を導きだせる。

② 問題文と選択肢が聞き取れて、理解していないと答えられない問題

例1. Why don't you hand out these pamphlets?

(A) Our updated menu

(B) At the corner of Maple Street

(C) Okay, I'll do it today.

例2. Are there any seats left in the reserved section?

(A) Not for Saturday's performance.

(B) We provide excellent service.

(C) He arranged the seats in a row.



例3. Why was my credit card charged twice?

- (A) Only a few times a week.
- (B) You should charge your laptop.
- (C) Sorry, let me check your account.

例1では、Why don't you～? (～したらどうですか?) という提案を表す慣用句が用いられている。これを、疑問詞の Why だけ聞き取って理由を尋ねる文章だと判断してしまうと、選択肢の中に理由を説明する文章はないので、答えが選べなくなってしまう。また、全体の文章の意味がわからず、pamphlets (パンフレット) だけ聞き取っている場合は、パンフレットによく掲載されている情報、つまり、メニュー (menu) や住所 (Maple Street) から選びがちである。「こちらのパンフレットを配ったらどうですか?」「わかりました。今日そうします。」という会話の組み合わせを正しく選ぶためには、全体を正しく聞き取って、慣用句を理解している必要がある。

例2では、「予約席で残っている席はありますか?」という質問の答えを選択するのだが、「あります」、や、「ありません」などの明快な Yes, No の選択肢はない。適切なのは、「土曜日の公演については残っていません。」という (A) の答えだが、これを導き出すためには、いくつかワナが仕掛けられている。まず、質問文に、seats (席) という単語があり、この単語は (C) の選択肢 He arranged the seats in a row. (彼は座席を一行に並べました) にも含まれている。質問も選択肢も良く理解できている上級者以外は、一般的に、質問文に出てきた音と同じ音が流れると、その同じ音を含む選択肢を選んでしまう傾向にある。これは、ETS が意図的に、リスニング上級者と初級中級者を分けるために仕掛けられているワナである。そして、(B) の選択肢、We provide excellent service. (弊社は素晴らしいサービスを提供します) には、service という単語が含まれている。この単語は、質問文の中にある reserved とよく発音が似ている。そこで、やはり似た音を含む選択肢を選んでしまう危険性がある。

この例2とよく似た発音のワナが仕掛けられている問題は少なくない。例えば、copy と coffee は文字でみるとまったく違うが、音声だけで聞くと非常に似ていて混同しやすい。budget (予算) と gadget (ちょっとした機械装置) も、ひとつの音節の違いだけなので、音声だと違いを判断しにくい。そして、count (数える)、account (金銭の計算書、経理部門)、accountant (会計士) もよく Part2に出題される発音の類似した単語である。

例3には、質問文の冒頭の疑問詞 Why に直接対応する選択肢、Because などは含まれていないので、難易度の高い問題になっている。Why was my credit card charged twice? という質問文に対して、まず、(A) Only a few times a week. という選択肢が流れるが、これは、意味を



よく理解していないと、質問文の *twice* (2回) に対応して、*a few times* を選んでしまう危険性がある。次に (B) の *You should charge your laptop.* が流れるが、この選択肢には、質問文にある *charge* という音が含まれているので、同じ音に反応して選んでしまう傾向がある。正解は、(C) の *Sorry, let me check your account.* (申し訳ありません。お客様の口座を確認します。) であるが、これは、質問文と選択肢の内容をよく聞き取って理解していないと選べない選択肢である。

③ 上級者でも間違いやすい問題

例1. *I'm here to pick up some theater tickets.*

(A) *Your name, please.*

(B) *Are they heavy?*

(C) *The third one.*

例2. *Would you like to join us on the social events committee?*

(A) *About six kilometers from here.*

(B) *They decided to join last year.*

(C) *I wish I could, but I'm very busy.*

例3. *Mr. Chin from the central office paid us a visit last week.*

(A) *What did you talk about?*

(B) *Around 43 euros.*

(C) *I've been there, too.*

例1は、「劇場のチケットを受け取りにきました。」という文章に対する適切な応答を選ぶ問題である。質問文ではないだけに、その次の展開は様々な可能性がある。実際に劇場でチケットを受け取る場合のやり取りを想像する必要のある、プラグマティックな問題である。正解は (A) の *Your name, please.* (お名前をお願いします。) だが、(C) の *The third one.* (3つ目のです。) を選んでしまう生徒も多い。

例2は、*Would you like to join us on the social events committee?* 「私たちと一緒に親睦イベント委員会に参加しませんか？」という誘いの文句である。*Would you like* ～？という丁寧な表現を用いている。選択肢 (B) *They decided to join last year.* には、質問文と同じ *join* が含まれているので、選んでしまいやすいが、主語の *they* と、*last year* がそぐわない。(C) には、仮定法の *I wish I could.* (できたらいいなあ) という慣用句が含まれている。これを知らないと、(C) を選ぶことができない。

例3は、Mr. Chin from central office paid us a visit last week. (本社の Chin さんが、先週私たちのところに来ました。) というセンテンスだが、まず、pay us visit (訪問する) を知っている必要がある。そして、時制は過去形であることを認識しておかなければ行けない。(C) の I've been there, too. を選ぶ学生も多いが、これは、現在完了形なので、「私もそこにいました」という意味ではなく、「私もそこに行ったことがある」という意味である。過去形の文章に対しては、過去形で答えている (A) What did you talk about? (何について話したのですか?) が正解となるが、これも状況や会話の流れを把握しているべきプラクティカルな問題である。

①のような問題に関しては、最初の疑問詞を聞き取る、という訓練をすればすぐに正解がわかるようになるが、スコアを上げる上に必要なのは、難易度の高い、②、③の問題の正解率をあげていくことである。そこで、授業内に2つのアクティビティーを実践した。

## 6.2. リスニングセクション Part2に関するアクティビティー1

公式問題集 Vol.5 の Part2 の問題から、②、③にあたる、中、上級者向け問題を8問ピックアップする。質問文 (あるいは肯定文) と、正解の応答を8セット作り、紙片に一文ずつ印刷して16枚の紙片を作る。16人の生徒は一枚ずつその紙片を持つ。生徒は、裏返しになった紙片から一枚を無作為にひくので、質問文にあたるか応答文にあたるかはわからない。生徒はクラスの中を歩き回りながら、自分の持っている紙片に印刷された文と応答としてマッチする文章を持っている人を探し出すタスクを与えられる。生徒は互いの文書を見せあってはいけない。お互い文章を発話して、それを聞き取り、マッチするかな否かを判断する。マッチしないと判断すれば、また他の人と、同じアクティビティーを繰り返す。マッチするかどうか迷った場合は、二人で英語を使って話し合うことができる。早くマッチする相手を見つけたペアからゲームの得点が与えられる。制限時間は10分とする。

このアクティビティーでは、

- ① 自分が与えられた紙片に書かれた文章を理解する。(リーディング)
- ② それを相手に発話する。(スピーキング)
- ③ 相手が発話する文章を理解し、自分の文章とマッチするか判断する。(リスニング)

迷った場合は、ふたりで英語で話し合う。(スピーキング)

このアクティビティーはライティングのスキルは含まないが、ライティングは第2のアクティビティーに含まれるため、後ほど言及する。

### 6.3. 結果と考察

ゲームの終了時に、4人がペアになれずに残った。この4人はすでにお互いの持っているセンテンスを知っているのだが、どれも応答として成り立たないという。4人が持っている文章は以下のものだった。

1. There are a lot of cardboard boxes in the lobby.
2. How's the new building coming along?
3. Don't worry, they'll be picked up soon.
4. Fine—they just finished installing the windows.

この4つのセンテンスをホワイトボードに書き、クラス皆で意味を考えた。1. では、cardboard boxes (段ボール箱) がロビーにある、ということと、それを片付けるという、3の「ご心配なく。すぐに片付きます」が、組み合わせの選択肢として考えられなかったという学生が数人いた。これがペアだといわれると、そうか、と思うけれど、ランダムに並んでいる状態では難易度が高い。

2では、How's ~coming along? (～はどのように進んでいますか?) の意味が分からず、4の「順調です。窓の設置が終わったところです。」が対応する応答として選べない原因になっていた。

この4つのセンテンスがバラバラにあり、かつセンテンスの中に意味が分からない単語があると組み合わせを見つけるのが難しいが、一度センテンスをしっかりと理解してシチュエーションが描けると、応答の組み合わせが浮かび上がってくる。

アクティビティーが終わった後、もう一度、アクティビティーに使ったパート2のリスニング問題をクラス全員で解いてみた。1回目の正解率は平均48%だったが、2回目は85%まで上昇していた。

### 6.4. 学生のアンケート

以下は、パート2のアクティビティーに対する学生の感想である。

- ・パート2のゲームは楽しく、応答の質問や答えを見つけられたのでよかった。そのあとにやったパート2の問題演習もすらすら解くことができたので、効果があったと思います。
- ・パート2のゲームは、「？」がついていないと、答えだと思い込んでいたので、最初、ペアがなかなか見つかりませんでした。そのゲームをした後のリスニングはとても聞きやすく、目で見えた英語と耳で聞いた英語の差を縮めていかなければいけないと思いました。

- ・問題をただ解くよりも、ゲーム感覚で正解を導くのが楽しかったし、あきらめないで答えをだそうと必死になることができたので、よかった。
- ・パート2のゲームは、自分で文を理解して質問と答えを一致させるので、とても頭を使ったし、わかりやすかった！
- ・パート2のゲームをしてみて、TOEICの問題だったので難しかったが、こういう組み合わせもあるのか！という応答もあって、いい発見ができた^^
- ・パート2のゲームは、思っていたよりも文だけが手元にある状態で答えを探すのは難しいんだなと思いました。
- ・ゲームは、質問に対していろいろな答えの可能性があるのがわかったし、ひねくれているなど思う答えもあったり、意外なものもあって、面白かったです。
- ・パート2のゲームは、なかなか対応するペアが見つからなくて困ったけど、とても面白かった。またやりたいです！
- ・パート2の問題を使ったゲームはとても楽しかった！記憶にも残りやすいし、またやりたいです。

以上、パート2のアクティビティーの感想を見ると、ゲーム感覚で楽しみながら、アクティビティーをしたこと、そして、意外な組み合わせに気づいて、はっとしたことなどが伺える。アクティビティーをした後のリスニングは聞きやすかった、というコメントがあるように、パート2のリスニングの正解率も37%上昇していて、効果があったと結論づけることができる。

#### 6.5. リスニングセクション Part2に関するアクティビティー2

Part2の応答問題のトランスクリプトを参考にしながら、自分でパート2の問題を作成する。正解を含む、3つの選択肢も作成する。16人のクラスをA、B、C、D、4人ずつ4グループに分けて、グループごとに、ひとりひとりが作成した問題をチェックしあって、応答文がマッチするか、他の選択肢は明らかに不正解といえるか、文法は間違っていないか、等を話し合う。次に、Aグループの4人がクラスの前に出て4つの問題を読み上げ、他のグループはAグループが作成した問題を解く。出題の後、Aグループは正解とその解説をする。問題を解いたグループは、何問正解できたか%を割り出す。これを、B、C、Dグループが繰り返す。正解率の低い、すなわち、難しい問題を作成できたチームが優勝である。ただし、正解の解説時に異議がある場合はクラスで討論し、修正が必要とされる問題に関しては削除される。

このアクティビティーでは、

- ① 問題を作成する（ライティング）
- ② グループでほかのメンバーの問題を読んで理解し、添削する（リーディング）
- ③ クラスの前で問題を発話する、グループ討論をする（スピーキング）
- ④ ほかのグループが作成した問題を解く（リスニング）

以上の4技能が使われている。

## 6.6. 結果と考察

以下、学生が作成したパート2の応答問題を11例記す。文法的ミスはグループですでに添削されている。

表3. 学生が作成した問題例

No.	学生が作成した問題	解説とコメント
1	If I miss the train, please bring me to school. (A) The train will arrive at seven. (B) OK. I will pick you up. (C) Unfortunately, my car is being repaired.	出題者は (C) を正解として作成していた。(B) は pick up (迎えに行く) なので、bring (送っていく) とは合致しない、という認識であったが、しかし、解いた側の学生の50%が、(B) を正解として選んでいた。理由を聞くと、「駅で電車を逃したら、駅まで迎えに来て、学校に送ってほしい」という意味に理解していた。また、(A) を選んだ学生は、「電車は7時に来るから、遅れないように行け」という意味で(A) を正解としていた。確かにどの解釈も間違っていないため、この問題に関しては、(A)、(B)、(C) がすべて正解となる。
2	I will go to a new café which opened last week. (A) How was it? (B) Be careful. The café is closed on Sunday. (C) Yes, I would love to.	正解は (B) である。last week があるので、過去形の“How was it?”を選んでしまいそうだが、問題文の時制は未来形である。
3	I have to attend a meeting today. (A) OK. I will be back. (B) Does John have to go too? (C) It's Friday.	正解は (B) である。単語や文型は単純だが、プラグマティックな問題に仕上がっている。
4	She overslept this morning. (A) Was she able to catch the bus? (B) Yes, she is. (C) I slept well.	正解は (A) である。(C) は overslept と slept が同じ音なので、ひっかけの選択肢として作られている。選択肢のほうが疑問文になっているという、ひねった問題である。

No.	学生が作成した問題	解説とコメント
5	Can you explain this issue in detail once again? (A) That's a great opportunity. (B) Sure. Please listen to me carefully. (C) They were very detailed.	正解は (B) である。(C) の選択肢も4同様、同じ音を選択肢の中に入れることによって、選ばせようとする ETS の問題作成テクニックを使っている。
6	Which hotel are you staying at? (A) You can study about hospitality. (B) The Marina Inn. (C) You should check in by 7:00pm.	正解は (B) である。この問題も、(A) の選択肢の中に <b>staying</b> と似た音である <b>study</b> を入れることによって、ワナを作っている。
7	Who is in this photo with you? (A) My colleague, Ms. Silvestro. (B) The photo is maybe my brother's. (C) Thank you. The shutter button is here.	正解は (A) である。(B) の選択肢の <b>my brother's</b> (私の兄弟のものです) と混同させるように作られている。
8	My friend said she wants to have a dog. (A) This dog's color is black and white. (B) I want a pet too. (C) I don't like dogs, but I like cats.	正解は (B) である。しかし、(C) も組み合わせとして不可能ではないので、(C) を変更しなければいけない。TOEIC の問題に <b>dog</b> や <b>cat</b> などの動物は出てこない。
9	Ms. Sato will hold a meeting at the hotel. (A) I want to work in a hotel. (B) What time will it be held? (C) Many meetings will be held.	正解は (B) である。最初のセンテンスが人が主語の能動態で、選択肢の (B) では、 <b>a meeting</b> を <b>it</b> に置き換えて、受動態の疑問文にしている。(C) に、 <b>meeting</b> と <b>will be held</b> を入れて、間違いやすくしている。
10	How is the new house coming along? (A) Everything is going well. (B) This train is coming at 2 o'clock. (C) The windows were broken by a thief.	正解は (A) である。パート2のゲームの時に出てきて、わからなかった、 <b>coming along</b> を使って、センテンスを作っている。選択肢 (B) にも <b>coming</b> を入れて、間違いやすく作成している。しかし、(C) も考えようによっては正解となる。
11	Why didn't he come to my house? (A) It's because I have to go to headquarters. (B) I heard he was sick. (C) Hurry up, please.	正解は (B) である。Why とくれば <b>because</b> と思っている初級者が (A) を選択するようワナを仕掛けてある。

学生が作成した問題には、パート2の問題分析によってわかった、問題作成のストラテジーが随所に生かされている。最初に読まれるセンテンスの中に出てくる単語と同じ、あるいは似た音を選択肢の中に入れて、間違いやすくしたり、時制の聞き取りを必要とする問題にしたり、よりプラクティカルな応答を作成している。こういった問題を作成するためには、語彙の意味、発音に注意を払い、正しい文法でセンテンスを作らなければいけない。学生は、単純にセンテンスを

作るだけでなく、発音も考慮しながら、想像力を使って、ライティングのタスクをこなしている。

実際に作成問題を出題してクラスで解いたときに、思わぬ理解の相違があって驚いた場面もあった。問題例1は、解説とコメント欄でも記したように、作成者の意図と、それを聞いた回答者が想像したシチュエーションが食い違い、状況しだいでどの応答もあり得るので、結局すべての選択肢が正解となった。改めて、問題作りの難しさと面白さを認識した、というコメントがいくつかあった。

このアクティビティーは4人ずつのグループ対抗ゲームであったため、問題作成の時も、他のグループの問題を解くときも、かなり真剣に取り組んでいた。文法や語法については、私も各グループを回って、いくつか訂正したり、アドバイスをしたりした。教える側にとっても、学生が理解していない文法事項を細かくチェックすることができて、いい機会であった。出題をするときは、他のグループの人にしっかり解いてもらえるよう、発音と声の大きさを意識していた。だが聞きにくい発音もあり、問題がよくわからない、という学生もいた。問題を解いた後各グループで感想を言い合ったが、自分たちの作成問題へのフィードバックや発音、イントネーションへのフィードバックなどがあり、普段 TOEIC (LR) を解いている時には意識しない、「自分の話す英語が聞き取りやすいかどうか」に関して意識を向ける結果となった。

#### 6.7. 学生のアンケート

以下はパート2のアクティビティー2に関する学生の感想である。

- ・ 問題作り、すごく難しかったです。似た発音の単語を入れたくても、あまり出てこなかったり、パターンを変えたりするのが大変でした。
- ・ みんな、ひねった問題を作っていて、すごいと思った。ちゃんと発音の似た引っ掛け問題を入れている人が多かった。
- ・ 自分では、正解として作った選択肢に自信があったのに、たくさんの人が他の選択肢を選んでいて、理由を聞いたら、友達の意見も正しかったので、ちょっとショックだった。解く人は、こちらが思いもかけないように判断するんだと知って、問題を作る ETS の人はすごい！と思った。
- ・ 疑問詞を使わないで、肯定文だけで応答の会話を作るのが難しかった。
- ・ 自分で問題を作ってみると、いかにひっかけるかなど、ETS の気持ちがわかったような気がしました。
- ・ いつもは解いているほうだが、難しい問題を作ろうとすると、いろいろな文法を混ぜて使うの



が、大変だった。みんなが作った問題を解くのが楽しかった！

## 7. リスニングセクション Part3に関するアクティビティー

### 7.1. Part3（会話問題）の概要

男女二人の会話を聞いて、設問に答える。会話は印刷されていないが、設問と4つの選択肢は印刷されている。会話の音声を一度だけ聞いて、設問の答えとして正しいものを選択肢から選ぶリスニング問題である。ここでは、本来なら提示されていない会話文のトランスクリプトも示すことにより、わかりやすくした。

例

M : Excuse me---I'm having a problem with my glasses. I just purchased them here two weeks ago, and this lens keeps falling out.

W : May I have a look at them? Ah... I see the problem. There's a small crack on the side of the frame, so it's not folding the lens in place.

M : Do you have time to fix that now? I'm on my lunch break, but I have to be back at work by one o'clock.

W : Well, since the frames are so new, I can replace them at no charge. It should only take about ten minutes. Why don't you have a seat, and I'll call you when they're ready.

#### 1. What does the store sell?

- (A) Eyeglasses
- (B) Cameras
- (C) Furniture
- (D) Hardware

#### 2. What does the man have to do at one o'clock?

- (A) Meet a friend for lunch
- (B) Return to work
- (C) Pick up an order
- (D) Go to a doctor's appointment

3. What does the woman offer to do for the man?

- (A) Speak with her manager
- (B) Refund his money
- (C) Make a replacement
- (D) Call a manufacturer

Part3の問題を分析すると、以下の傾向が見られる。

- ① 設問は、ほとんど会話の進行順に出題される。
- ② 設問に the man とあれば、男性が話しているダイアログの中に、the woman とあれば、女性が話しているダイアログの中にヒントがある。
- ③ 設問には2種類がある。一つは、ピンポイントの情報を聞き取る設問。会話の中で一度だけ言われる情報をキャッチしなければいけない。二つ目は、会話全体の中から推測される情報を聞き取る設問である。

例えば、設問2は、「男性は1時に何をしなければいけないか？」という設問だが、この答えは、男性のダイアログの“I have to be back at work by one o'clock.”（1時に仕事に戻らなければいけない）にある。この部分を聞き逃すと、他でこの情報を見つけることはできない。同じように、設問3も、「女性は男性に何をすると申し出ていますか？」という答えは、女性のダイアログの、“I can replace them at no charge.”（無料でお取替えいたします）の部分でしか見つけられない。この2つは、ピンポイントの情報を聞き取る問題である。一方、設問1の“What does the store sell?”（その店は何を売っていますか？）に関しては、会話の数か所に、my glasses や lens という単語が出てくるため、メガネを売っていることがわかる。この設問は、会話全体の中から推測される情報を聞き取る問題である。

Part3の問題を解くためには、設問の先読みがキーになる。何について聞かれるのかを把握してからその情報を待ち構えて聞くことにより、必要な情報を聞き取る精度が高まる。

以上を学生自らが、会話文と設問を分析する形で概要を把握してから、アクティビティーに移行する。

7.2. リスニング問題 Part3に関するアクティビティー

4人一組のグループを作り、公式問題集のパート3の会話文10題のうちから各グループ1つの会話文を選び、その会話文に対する設問3つと、それぞれの設問に対する選択肢4つをグループで

作成する。問題作成においては、公式問題集の設問と選択肢を参考にしながらも、まったく異なる設問を作成しなければならない。問題作成が完成したら、各グループは、ナレーター、男性、女性、設問をいう人、に役割を分担して、出題の練習をする。特に男女の会話は、自然に聞こえるようにスムーズに会話文が発話されなければならない。そのあと、各グループは黒板に設問と選択肢を書く。これは、パート3の出題形式と同様にするためと、設問の先読みを可能にするためである。準備ができたなら、各グループが前に出て、会話文を演じ、出題をする。クラス全員でその問題を解いた後、出題したグループは解答解説をする。

このアクティビティーでは以下のスキルを使う。

- ① グループで話し合って問題作成をする。問題作成の時、会話文のトランスクリプトを読み、理解する。(ライティング、リーディング)
- ② クラスで会話文と設問を出題する。(スピーキング)
- ③ 出題された会話文を聞いて、問題を解く。問題の先読みもする。(リスニング、リーディング)

### 7.3. 結果と考察

問題作成は、グループごとに作成過程が様々であった。設問3つと選択肢4つを、4人で一緒に考えたグループもあれば、会話文を3つに区切り、前半のパート、中間のパート、後半のパートに分けて、担当を割り振ったグループもあった。できた問題を検証する過程では、選択肢を変えたり、文法を見直したりしていた。文法に関しては、私も各グループを回ってアドバイスをした。

問題の出題は、グループごとに前に出て発話したが、男女の会話のパートを実際にジェスチャーを交えて演じるグループもあれば、恥ずかしがってしまって、小さな声での発話になったグループもあった。出題するほうも解くほうも、楽しみながらしかし真剣にアクティビティーに取り組んでいた。

問題を解いた後の解説の段階では、質問や異議も出ていたが、出題者の解説で納得する場面がほとんどであった。

### 7.4. 学生のアンケート

以下は、パート3のアクティビティーに関する学生の感想である。

- ・問題を作ったのを解きあうのはとっても面白かった。自分が作成した問題には、文法の間違いがたくさんあったので、次回はもっと正しい文法で書けるようにしたい。

- ・すごく発音がきれいで、かっこよく読んでいる人がいて、うらやましかった。私ももっときれいに英語が発音できるようになりたい。
- ・ここを問題にしたいけれど、どうやって表現しよう、とか解く人のことを考えて作るというのがとても難しかった。
- ・自分たちで問題を出し合って、自分たちで解くのはすごく面白くて、楽しかったです!!
- ・パート3の問題をグループで解きあうのは楽しかったが、発音がわかりにくい人もいて、聞きにくかったし、答えがちっとわからない問題もあった。
- ・今日は、みんなが作った問題をやって、意外と難しくて、すごいな～と思いました。
- ・グループで話し合いながら、問題を作るのが楽しかった。選択肢を難しくしたので、みんなが間違えたのがうれしかった。
- ・引っかかる問題を作っている子もいて、工夫されていて、面白かった。作った文の間違いを直すことで、文法の復習ができたと思う。
- ・すごく難しい問題や単語を使った選択肢があり、すごいな～と思った。自分たちで作って解くのは楽しかった。
- ・引っ掛けようと思って作った選択肢に引っかかる人がいると、うれしかった!

## 8. おわりに

以上に述べた4つのアクティビティーは、タスクベースのアクティブラーニングである。学生は TOEIC の問題を分析して得られた結果を生かして、「TOEIC らしい問題を作成する」、というタスクをこなすために、4技能を用いてアプローチした。その過程で、グループワークを通してお互いの文法をチェックしたり、会話文の内容をお互いに話し合ったり、またグループで出題をする、ということも経験した。では、このアクティビティーによって、4技能の向上はどのように観察できるであろうか？

まず、ライティングに関しては、学生が問題作成を通して、TOEIC に出題される文法の確認や、自らの文法の弱点を認識できた様子が伺える。グループワークの過程で、お互いに文法ミス指摘しあったり、気軽に質問し合ったりする中で、ひとりで問題を解いているときと比べると、記憶に残る形で学習が進められた。また、講師側もグループを回って問題作成の様子を見守る中で、学生が見落としている点を指摘したり、問題を投げかけたりすることができた。普段クラス

では発言するのに勇気があるような学生も、少人数だと気軽に質問を投げかけてくる。アンケートの中でも、問題作成で苦勞する中、態や時制を復習できた、あるいは、単語の意味だけでなく発音にも目を向けるようになった、という声が聞かれた。出題をした後の解説の部分でも、学生の理解を確認することができた。

リーディングに関しては、それぞれのアクティビティーで必要であったが、特にパート3の問題作成をするにあたり、男女の会話文を詳しく読みこむ必要があった。なんとなく理解していた内容が、細かいところで違っていたり、イディオムを誤解して反対の意味に捉えていたり、ということをグループで話し合う中で確認した学生もいた。また、パート2の応答問題作成では、同じ文章を読んでも想像する状況が違う、という発見は興味深かった。

次に、リスニングに関しては、今回のアクティビティーでは、ネイティブの発音を聞くというより、友人の発話を理解することに留まったが、お互いにペアを見つけたり、友人が作成した問題をリスニングして解いたりするアクティビティーがあったので、よりコミュニケーションなリスニングができていたように思う。また、スピーキングと連動して、聞きやすい発音、聞きにくい発音をよりはっきり意識することができた。

スピーキングに関しては、作成問題を出題するときにクラスの前で発話した。自分たちが出題者になるというタスクであるため、より伝わりやすい英語が求められる。解答者が問題を解こうと意識を集中して聞いている中で、出題者は大きな声で正しく発音することを意識して話していた。学生によって大きく差が出たのもスピーキングである。発音がネイティブに近くて流れるように発話できる学生と、単語ごとに区切れてしまう学生、アーティキュレーションがはっきりせず聞き取りにくい学生など、ひとりひとりの問題点も見えた。

今後の課題としては、グループワークの際に英語で議論することの難しさがあげられる。今回も英語で議論することを求めているのだが、始めはそう試みたものの、結局どのグループも言いたいことが英語にならず、日本語を使った議論になってしまった。これは、**EFL (English as a Foreign Language)** の略、非英語圏でその国の人が英語を学ぶ) 環境での英語学習の難しさである。**ESL (English as a Second Language)** の略、英語圏で外国人が英語を学ぶ) 環境では、様々な国の人が集まってクラスが形成されているので、どんなに初級者でも英語を話さないとコミュニケーションできない、という状況に置かれるが、**EFL** では、英語で話さなくても、みな母国語に頼ってコミュニケーションが成立してしまう、というデメリットがある。この **EFL** のデメリットをどう解決していくかが、グループワークにおける課題である。今後、英語でのグループワークに必要なフレーズ集を作成、活用して、英語のみでの議論をファシリテートするなど、解

決策を模索する必要がある。

最後に、対象学生の前期の TOEIC (LR) のスコアと12月中旬に行われた TOEIC (LR) 試験の結果を比較してみる。クラス平均で、リスニング 33.16点、リーディング 39.37点、合計72.5点スコアが伸びている。リスニングとリーディングをあわせて、101点～200点スコアが伸びた学生が4名、51点～100点伸びた学生が8名、50点以下の伸びだった学生が4名だった。スコアの伸び率は学生によりまちまちだったが、一定の効果があったと推察できる。

スピーキングとライティングのスキル向上に関しては、学生のアンケートと、私の観察のみで、客観的なデータは今回取れていない。客観的データを取るためには、TOEIC (SW) の受験などで比較することが必要である。これに関しては、今後予定されているため、結果が出た段階で論じたいと思う。

今回実施したアクティビティーの目的は、「TOEIC の問題を解く」ことの逆発想で、「TOEIC の問題を作成する」というタスクを通じて、学生が TOEIC への理解を深めスコアを上昇させることと、互いにコミュニケーションをとりながら学びあうアクティブラーニングを通して、学生が4技能をまんべんなく使いそれを向上させること、の2つであった。TOEIC (LR) 対策のクラスは、他の資格試験対策と同じように、講師が一方的に話す講義形式になりがちで、グループワークなどコミュニケーションをベースにしたアクティビティーもなかなか入れにくい傾向がある。よって学生は、リスニングとリーディングという「受身の技能」のみの学習に終わってしまいがちである。しかし今回、TOEIC (LR) の素材を使いながらも、スピーキングやライティングを取り入れることで、4技能を使つてのアクティブラーニングが実現した。学生はクラスメイトに刺激を受けながら、楽しんで TOEIC 問題に取り組み、一定の効果をあげたことが観察できた。

今後、就職やビジネスにますます必要とされる TOEIC (LR) のスコアを伸ばしていくことは、学生にとって大きな課題だが、同時に英語でのコミュニケーション力も今まで以上に求められることになる。このふたつの需要に応えるために、TOEIC (LR) を用いたアクティブラーニングをより充実させていきたいと考える。

注

1. Yvonne S. Freeman, David E. Freeman. *ESL/EFL teaching Principles for Success*, Heinemann, 1998

2. Harste, Jerome, Virginia Woodward & Carolyn Burke. *Language Stories and Literacy Lessons*, Heinemann, 1984

#### 参考文献

1. 文部科学省「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」2013  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/25/12/\\_icsFiles/afieldfile/2013/12/17/1342458\\_01\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/25/12/_icsFiles/afieldfile/2013/12/17/1342458_01_1.pdf)
2. 文部科学省「英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の活用促進に関する連絡協議会」  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/106/houkoku/1353573.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/106/houkoku/1353573.htm)
3. MEXT: English Education Reform Plan corresponding to Globalization  
[http://www.mext.go.jp/english/topics/\\_icsFiles/afieldfile/2014/01/23/1343591\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/english/topics/_icsFiles/afieldfile/2014/01/23/1343591_1.pdf)
4. Test and Score Data Summary for TOEFL iBT Tests January2014-December 2014 Test Data  
[https://www.ets.org/s/toefl/pdf/94227\\_unlweb.pdf](https://www.ets.org/s/toefl/pdf/94227_unlweb.pdf)
5. Educational Testing Service  
<https://www.ets.org/>
6. 公益財団法人 日本英語検定協会  
<http://www.eiken.or.jp/eiken/>
7. 一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC テスト新公式問題集 Vol.4、2009
8. 一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC テスト新公式問題集 Vol.5、2012
9. 一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC テスト新公式問題集 Vol.6、2014